

2オペレーション仕様

汎用機では できない作業効率

森飛15の2オペレーションは見通しの悪い森林でも全ての作業を目視内で安全に作業するために開発された産業用ドローンでマゼックスが国内初搭載とした「2つの送信機で1台の機体を操縦する2オペレーション仕様」を標準装備しています。推進力のあるモーターと強固なフレームにより、突風などの状況下でも迅速に作業を遂行します。



驚異的な速さと 正確性の2オペ

作業効率
10倍以上

2オペレーション機能は機体1台に対して、2台の送信機で操縦を行います。オペレーターは出発地点、サブオペレーターを目的地に配置し、機体が中間地点に到達するとスイッチ操作で操縦権をサブオペレーターへ瞬時に移行させ、目的地への飛行を再開します。2オペレーションを運用することで、カメラや自動操縦では困難な狭小な場所への運搬作業を可能にします。目的地で操作することで、荷下ろし地点を思うままに変えることができます。



万が一の離脱機能も装備

万が一、切離し装置が動作せず運搬物を切り離すことができない場合や木に運搬物等が引っ掛かって機体が脱出できない場合、緊急切離し装置を作動することで自動切離しフックごと切離し、機体を安全に帰還させることができます。



RTK自動飛行仕様

※RTK自動飛行仕様はオプションです。

誰でも簡単な運航を

500m先でもピンポイント

機体に飛行ポイントを一度登録すると飛行プログラムを設定することができます。

GPSとRTK基地局を使用した自動飛行で遠く離れた場所でも高精度な範囲に運搬物を下ろします。

一度設定すれば往復移動は何も触ることなく運搬作業を実施します。



作業時間の省力化

自動飛行仕様は、運搬作業の省力化に大きく貢献します。

運搬作業に人手を取られなくなるので、苗木運搬の場合、植栽作業も並行して実施することも可能になり、作業スケジュール短縮や人件費削減に繋がります。また作業するための安全機能も多数装備し、森飛15が賢くサポートします。



簡単操作・高い信頼性

RTK基地局はボタン1つで起動・接続することが可能で、誰でも簡単に取扱えます。接続状態もLEDで判断できるので安心です。

衛星からのGPS信号で基本的には正確な位置を受信することが可能ですが、山間部やビルなどの壁面などに反射しやすい性質があるため、正確な位置をドローンが判断できなくなることがあり、飛行安定性が低下します。

そこで安全な飛行を継続するためにRTK基地局が最適です。

GPS信号に加え、RTKで位置情報を補正し正確な位置を把握できます。

そのためRTKを使用することで信頼性が高まり、自動飛行など精度が向上しました。

